

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

子どもの発達過程や課題をおさえたうえで、教育や保育現場における、子どもの発達を理解する視点と援助の意義および方法を学ぶ。公認心理師、臨床心理士として病院や保健相談所における発達相談・心理相談の実務経験を活かして、現代的な発達課題を背景にもつ、保育現場・学校現場で生じやすいケースを提示しながら講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス／子どもの発達理解と援助の意義
第 2 回	発達の理解と援助に役立つ理論
第 3 回	発達の理解と援助に役立つ環境理解
第 4 回	子どもの発達過程：身体機能・感覚・認知
第 5 回	子どもの発達過程：言語・社会・情動
第 6 回	子どもの学びと保育・教育
第 7 回	子どもを理解する視点：生活・遊び・集団
第 8 回	子どもを理解する方法：観察・記録・省察・評価
第 9 回	子どもの生活・生育環境とその影響
第 10 回	発達の課題に応じた援助と関わり
第 11 回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第 12 回	子どもの精神保健とその課題
第 13 回	発達の連続性と就学への支援
第 14 回	家庭・家族関係の理解と子どもの発達援助
第 15 回	まとめ：現代的発達課題の理解と援助
第 16 回	定期試験またはレポート

到達目標

- ・子どもの発達過程と課題に応じた援助の意義と方法を理解することができる。
- ・子どもを理解する視点と方法を身につけ、共感的な援助の姿勢を示すことができる。
- ・子どもの発達に関する現代的な課題を理解し、援助の視点を持つことができる。

履修上の注意

授業は、ワークやロールプレイ、ディスカッション等を用いて演習形式で進めていくので、積極的に参加すること。

予習・復習

次回授業のテーマをあらかじめ伝えるので、関心を持って調べておく。
授業後には、配布資料を基に授業内容を復習し、参考文献も用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）、定期試験またはレポート（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課す課題などの評価・提出状況、および授業態度も考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。
授業内で適宜、参考文献を紹介する。